

大学院生のご紹介

第7期大学院生 千葉 貴宏
(第5期OB)

OB・OGの皆様、こんにちは。小野晃典研究会第5期OB（外務代表・OB・OG会誌, Vol. 1 編集長）で、現在、大学院後期博士課程の千葉貴宏です。2013年度は、4名もの前期博士課程（修士課程）1年生を迎え、小野ゼミ大学院生は全体で8名となりました。本稿では、現在の小野ゼミの8名の大学院生の簡単なプロフィールと研究活動をOB・OGの皆様にご紹介申し上げます。

千葉 貴宏 (ちば たかひろ, 第5期OB・第7期大学院生)

現在の学年：後期博士課程（博士課程）3年

研究テーマ：「サービスに対する顧客満足の規定変数と結果変数」

サービスに対する顧客満足を巡る既存モデルの改良・拡張を試みています。

今年の成果：“Service Recovery Satisfaction Model with Expectation and Equity Standards”, *2013 American Marketing Association Winter Educators' Conference Proceedings*, Vol. 24, pp. 185-186, 他.

最後に一言：気付いたらアラサーになっていました…。



菊盛 真衣 (きくもり まい, 第7期OG・第9期大学院生)

現在の学年：後期博士課程（博士課程）1年

研究テーマ：「eクチコミに対する消費者の情報取得行動」

賛否両論のクチコミサイトを閲覧した消費者が、当該サイト上のクチコミに対していかなる情報取得行動をとるのかを探究しています。

今年の成果：“Positive Effects of Negative Word-of-Mouth on Consumer Attitude: Considering the Ratio and Order of e-WOM”, *2013 American Marketing Association Winter Educators' Conference Proceedings*, Vol. 24, pp. 2-3, 他.

最後に一言：今年もOB会の副幹事を地味に努めております。今後も、OB・OGの皆様と現役生のイイかんじの架け橋でありたいと勝手に思っています！！どうか皆さまお気軽にゼミに足を運んでください！！



白石 秀壽 (しろいし ひでとし, 第9期大学院生)

現在の学年：後期博士課程（博士課程）1年

研究テーマ：「フランチャイズ・システムの制度的多様性」

現在、「人事の経済学」の観点から、インセンティブ、リスク分担、および選別装置としてのフランチャイズ契約に関する、フォーマル・モデルの構築に励んでいます。

今年の成果：「フランチャイズ・システムにおける意思決定権の集権化と分権化」、『市場創造研究』, 第2巻 (2013年3月), pp.13-21, 他2本投稿中.

最後に一言：フランチャイズ契約の他、販売管理論、製品開発論、企業家（起業家）論に関心を寄せています。実務家の方のナマの声を幅広くお聞かせ頂けると幸いです。宜しくお願い致します。



林 艶紅 (りん えんこう (Lin, Yanhong), 第10期大学院生)

現在の学年：前期博士課程（修士課程）2年

研究テーマ：「消費者の社会的アイデンティティと製品選択」

消費者の社会的アイデンティティが脅かされている状況下における、消費者の製品選択意図を説明しようと試みています。

最後に一言：今年度1年間は、忘れられない1年間になりました。これからも、よろしくをお願いします。



竹内 亮介 (たけうち りょうすけ, 第9期OB・第11期大学院生)

現在の学年：前期博士課程（修士課程）1年

研究テーマ：「競争的干渉に対する広告の示差性の効果」

認知心理学の知見に基づいて、多数の類似した広告への露出によって生じる記憶の忘却について研究を進めています。

今年の成果：「競争的な広告環境における弁別性の効果 —— 広告表現の導入 ——」, 日本商業学会関東部会にて研究報告（於早稲田大学）, ”Distinctiveness of Advertising Executional Cues as a Moderator of Competitive Advertising Interference” presented at European Marketing Academy (Istanbul, TUR).

最後に一言：今年は、自分史上一番頑張れた1年間になったと思います。とはいえ、まだまだひよっこなので、引き続き学問に精進します。



蒲 英 (ぷー いん (Pu, Ying), 第11期大学院生)

現在の学年：前期博士課程（修士課程）1年

研究テーマ：「広告表現における修辞技法の効果」

多種多様な広告表現に用いられる修辞技法に焦点を合わせ、それが消費者のブランド再生およびブランド態度に及ぼす影響を探究しています。

最後に一言：小野ゼミでとても有意義な1年間を過ごすことができ、心から感謝しています。これからも、よろしくをお願いします！



韓 貞烈 (かん しんよる (Han, Zhenlie), 第11期大学院生)

現在の学年：前期博士課程（修士課程）1年

研究テーマ：「広告の繰り返し効果」

広告への露出回数と消費者の態度の関係は、逆U字型になることが知られています。その関係に影響を及ぼす調整要因について研究を行っています。

最後に一言：「成長度」という観点から見ると、「小野ゼミでの1年間＝他のところでの5年間」だと思います。今後も成長を続けられるよう、イキイキと頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします！



邱 騰箴 (きゅう とうしん (Chiu, Tengchen), 第 11 期大学院生)

現在の学年：前期博士課程（修士課程）1 年

研究テーマ：「e クチコミキャンペーンがクチコミ受発信に及ぼす影響」

e クチコミキャンペーンの実施が、クチコミの信憑性や消費者のクチコミ発信意図に与える影響に関して研究しています。

最後に一言：台湾出身のきゅうです。きゅうとうしんという名前ですが、残念ながら、実際は九頭身ではありません。今年度は、小野ゼミで色々勉強させていただいて、大変充実した 1 年を送っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします！



以降では、昨年 2 月からの 1 年間における大学院生の主たる学会活動をご紹介します。

2013 年 2 月：American Marketing Association Winter Educators' Conference (Las Vegas, NV, USA)

報告テーマ：Mai Kikumori, “Positive Effects of Negative Word-of-Mouth on Consumer Attitude: Considering the Ratio and Order of e-WOM”

Takahiro Chiba, “Service Recovery Satisfaction Model with Expectation and Equity Standards”



2013 年 4 月：日本商業学会関東部会 (於早稲田大学)

報告テーマ：竹内亮介, 「競争的な広告環境における弁別性の効果 —— 広告表現の導入 ——」

菊盛真衣, 「賛否両論の製品に対する消費者の追加的情報取得行動」



2013 年 5 月：日本商業学会第 63 回全国研究大会 (於立命館大学)

報告テーマ：菊盛真衣, 「Web 上のクチコミ・メッセージの訴求点と賛否のばらつきによるクチコミ効果の差異 —— 消費者の情報取得行動に着目して ——」

千葉貴宏, 「長期的サービス取引に関するモデルの構築と実証 —— 基本属性および副次属性の導入 ——」



2013年6月：European Marketing Academy (Istanbul, TUR)

報告テーマ：Ryosuke Takeuchi, “Distinctiveness of Advertising Executional Cues as a Moderator of Competitive Advertising Interference”



2013年7月：Academy of Marketing Science (Melbourne, AUS)

報告テーマ：Takahiro Chiba, “Development of the Long-Term Service Model on Customer Relationships: Consideration of Primary and Secondary Attributes”

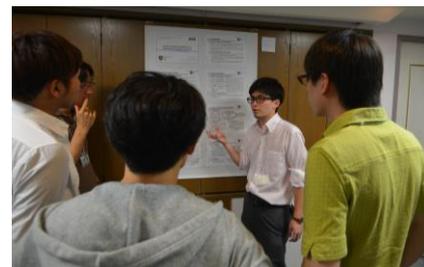


2013年9月：マーケティング夏の学校 (於マホロバ・マインズ三浦)

報告テーマ：白石秀壽, 「フランチャイズ店 対 直営店 ——フランチャイズ・チェーンによるチャネル選択の実証分析——」



千葉貴宏, 「Effects of Customer Satisfaction on Re-purchasing in Long-term Services」 (ポスターセッション)



菊盛真衣, 「Paradoxical Relationship between the Amount of Negative e-WOM Messages and Positive Consumer Attitude」 (ポスターセッション)



2013年12月:マーケティングサイエンス学会マーケティングイノベーションとコミュニケーション研究部会共催・慶應義塾大学大学院商学研究科商業学分野報告会 (於慶應義塾大学)

報告テーマ: 菊盛真衣, 「消費者行動論における事例ベース意思決定モデルの適用可能性」



最後となりますが、来年度は、第10期生の中村世名君を迎え、小野ゼミ大学院生は、変わらぬ賑やかさで研究に励めることと思います。毎週金曜日の大学院ゼミ(1~3限)と学部ゼミ(4限~)に、是非ご来訪ください。どうぞ宜しくお願いいたします。



2014年度も変わらず、楽しく、元気に、研究活動に打ち込んでいきます!